

氏名	吉田 純子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6009 号
学位授与の日付	令和元年6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Association of night eating habits with metabolic syndrome and its components: A longitudinal study (夜遅い食事摂取とメタボリックシンドロームおよび構成項目との関連：縦断研究)
論文審査委員	教授 和田 淳 教授 四方賢一 准教授 中村一文

学位論文内容の要旨

夜遅くの食事摂取が、メタボリックシンドロームや肥満のリスクであることが報告されている。本研究では、40～54歳の日本人男女を対象に「就寝直前の夕食摂取」、「夕食後の間食摂取」、またはその両習慣を併せ持つかどうかと、4年後のメタボリックシンドロームや肥満、高血圧、脂質異常、耐糖能異常の発現との関連を検討した。両習慣をもつ女性では、メタボリックシンドロームの発現と関連があり、多変量調整オッズ比は1.68 (95%信頼区間[CI], 1.00-2.84)であった。両習慣をもつ男女ともに肥満、脂質異常の発現との関連が認められた。多変量調整オッズ比は、肥満はそれぞれ2.11 (1.42-3.15)、3.02 (1.72-5.29)で、女性では肥満発現に対して相加を超える効果の傾向が認められた ($p=0.06$)。脂質異常は、それぞれ1.46 (1.06-2.01)、1.66 (1.06-2.61)であった。夜遅い食習慣をもつ個人への介入と指導の必要性が示唆された。

論文審査結果の要旨

夜遅くの食事摂取がメタボリックシンドロームや肥満のリスクであることが報告されている。従ってこのような生活習慣に介入してメタボリックシンドロームを予防することは医療費の削減、健康寿命の延長という点からみて重要な課題である。

本研究では「就寝直前の夕食摂取」、「夕食後の間食摂取」さらには両方の食習慣を併せ持つことと、4年後のメタボリックシンドロームの有無、肥満、高血圧、脂質異常 (中性脂肪の上昇あるいはHDL-Cの低下)、耐糖能異常との関連を検討した。両習慣を有する女性ではメタボリックシンドロームの発症と関連があり、その多変量調整オッズは1.68であった。さらに両習慣がある男女はともに肥満や脂質異常と関連が認められた。

委員からはメタボリックシンドローム発症における食習慣の関与の男女差について質問があった。本研究者は交感神経活動の差、皮下脂肪と内臓脂肪の分布の差、摂取エネルギーの差などをその要因として回答した。

本研究は夜遅い食習慣を持つ個人への介入と指導が、メタボリックシンドローム・肥満の予防につながる可能性を示唆しており、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。